

2025年度 千住学部時間割

科目名称	特別支援教育（中・高）
授業コード	BN328
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	石橋 裕子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	高等学校等で教育経験のある担当者が、ディプロマポリシーにある「教育の実践的な活動を支え、それに不可欠な教育学・教科内容学・教科教育学などの専門的知識や技能を習得」するために、以下のように授業を展開する。 1.特別支援教育の理念や考え方等を理解する 2.特別の支援を必要とする幼児児童生徒の特性や心身の発達を理解する 3.各障害の特性及び支援方法、特別支援教育に関わる学校内外の職種や関連機関等との連携等について理解する 4.障害はないが、特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒や支援の方法等について概観する
科目に関連する実務経験と授業への活用	高等学校等で教育経験のある石橋が担当し、4人1チームでの学びを基本とする。毎時間ルーブリック等を用いて授業を振り返る。また、配慮の必要な児童への指導上の留意点を解説する等、常に学校現場を意識した授業を展開する
到達目標	カリキュラムポリシーにある「子どもの発達や教育の基礎を学ぶための科目」として、以下のような目標を設定する。 1.特別支援教育の理念や子どもの教育を支える制度や教育上の仕組みを理解する 2.発達障害及び障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒への支援と指導の在り方について検討できる 3.特別支援教育にかかわる学校内外の職種や様々な福祉等関連機関との連携を知る
計画・内容	第1回：ガイダンス、講義概要、協同学習での学び方、特別支援教育の理念や仕組みを知る（教科書 第1講） 第2回：発達障害1 特別の支援を必要とする幼児児童生徒の特性を知る（教科書 第2講） 第3回：発達障害2 理解しにくい、聞こえにくい見えにくい等発達障害の疑似体験を通して、支援の方法等を異検討する（教科書 第2講） 第4回：特別支援教育と校内支援体制 幼小中高校での特別支援教育の現状を知る（教科書 第4・6～9講） 第5回：教育課程の中の特別支援教育 特別支援学級、通級による指導、特別支援教室を理解する（教科書 第3・11講） 第6回：特別支援教育に関わる人たちと関連機関 特別支援教育コーディネーター・養護教諭・スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー、児童相談所・子ども家庭支援センター等との連携を知る（教科書 第5・12講） 第7回：特別支援学校 特別支援学校の教育・センター的機能とその役割を知る（教科書 第10講） 第8回：様々な障害 情緒障害・知的障害・肢体不自由・病弱・身体虚弱・視覚障害・聴覚障害・重複障害等の理解と支援方法を検討する（教科書 第10講） 第9回：特別の教育的ニーズ 障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒を知り、支援方法を検討する 1（貧困、虐待）（教科書 第13～14講）

2025年度 千住学部時間割

計画・内容	第10回：特別の教育的ニーズ 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒を知り、支援方法を検討する2（外国にルーツがある、ヤングケアラー、アレルギー・偏食）（教科書 第13～14講） 第11回：特別の教育的ニーズ 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒を知り、支援方法を検討する3（LGBTQ、ギフテッド）（教科書 第13～14講） 第12回：他機関との連携 1 児童相談所一時保護施設・児童養護施設・乳児院・母子生活支援施設の特徴等と利用児を知る（教科書 第13～14講） 第13回：他機関との連携 2 児童心理治療施設・児童自立支援施設・福祉型児童発達支援センター・医療型児童発達支援センターの特徴等と利用児を知る（教科書 第13～14講） 第14回：個別の教育支援計画・個別の支援計画 学級担任等が立案する支援計画を知る（教科書 第2・5・10講） 第15回：総括 成果と課題をまとめ考察する（教科書 第15講）
授業の進め方	1.家庭での予・復習時に作成した自学ノート、教科書、ワークシート、振り返りシート等を使用する。 2. 4人1グループを基本とした協同学習によるストラクチャ（手法）で学ぶ。協同学習の詳細は第1回で説明する。
能動的な学びの実施	1.毎時間ペアまたは4名のチームでの協同学習での活動を中心に学ぶ。 2.互いの知識が高められるよう、ホワイトボード等を使った言語での活動等も行う。
授業時間外の学修	1．予習 教科書のわからない語句等にアンダーラインを引き、意味を調べて余白に意味を記入する（40時間程度） 2．復習 ワークシートに追記する等してファイル等に綴じ、学びを自学ノートにまとめる（20時間程度）
教科書・参考書	教科書 「よくわかる！教職エクササイズ 特別支援教育」石橋裕子ほか編著 ミネルヴァ書房 参考書 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館 「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園保育・教育要領解説」文部科学省 フレーベル館 「小学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省 東洋館出版社 「中学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省 東山書房 「高等学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省 東山書房 「特別支援学校学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）」文部科学省 開隆堂出版 「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）」文部科学省 海文堂出版 「よくわかる社会福祉施設」全国社会福祉協議会 「介護等体験ガイドブック フィリア」[新学習指導要領（平成29年公示）版] 全国特別支援学校長会 ジアース教育新社 「新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド」石橋橋裕子他編著 同文書院 「小学校教育実習ガイド」石橋裕子ほか編著 萌文書林
成績評価方法と基準	出席状況10%、発表・提出物20%、試験70%等を総合して評価する。
課題等に対するフィードバック	ループリック等は毎時間コメントを記して返却する。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	1.予・復習時には自学ノートを作成し、毎時間の学びを視覚化する。 2.自ら学修課題を解決するように努め、演習やグループでの学びに取り組む。 3.私的なスマホ操作等は禁止する。

2025年度 千住学部時間割

留意事項	4.チーム活動が中心の授業展開なので、欠席するとメンバーに迷惑が掛かる。欠席することがないよう健康管理には十分注意を払う。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 1.学内インフラを使用した課題学修を中心とした授業を、教科書とともにパワーポイントやワークシート等を併用して展開する。 2.事前学習を行っていることを前提に授業を展開する。 3.パワーポイントは音声をつけて配信する。 成績評価方法 1.課題及び振り返りシート等の提出物40%、期末試験60%、等を総合して評価する。 2.課題が期限に遅れることなく提出されることを出席の原則とする。

2025年度 千住学部時間割

科目名称	教育原理（小・中・高）【中・高】
授業コード	BN109
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	神谷 純子
記入不要 ナンバリ ングコード	BJ103
授業の概要	体験をとおして獲得してきた「教育」、「学校」、「学習」、「指導」、「児童生徒・こども」に関する知識や考え方を大切にしながら、「教育」という営みとその原理について歴史的、思想的、実践的および社会的な視点から総合的に学習する。さらに、授業で得た知識を活用し、現在の教育について関心をもち意見を述べる機会を提供する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	学校教員としての実務経験を踏まえて講義内容及び方法に工夫を凝らし、教育現場に根差した知識技術の修得を図る。
到達目標	教育学を学び、教員免許状を取得するための諸科目を履修する基礎知識を獲得する。具体的には、教育の基本的概念、教育の理念について理解し、教育の歴史や教育の思想としてどのように現れてきたかについて基礎的な知識を獲得するとともに、これまでの教育や学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのについて理解することができる。 学科のカリキュラム・ポリシーとの関係では、子どもの発達や教育の基礎を学ぶための科目（教育学基礎科目）に相当する。また、学科ディプロマ・ポリシーとの関係では、教職に求められる専門的知識を習得し、学識と技能を身につけ、様々な課題について、各領域で習得した幅広い知識をもとに、解決策を提案することができる【基礎力・思考力】科目に相当する。
計画・内容	第1回：オリエンテーション 第2回：教育の意義と目的 第3回：教育の基礎的概念と諸理論 「社会化」に関わる諸問題 第4回：教育の基礎的概念と諸理論 諸外国の教育理論 ソクラテス他 第5回：教育の基礎的概念と諸理論 諸外国の教育理論 カント他 第6回：教育の基礎的概念と諸理論 諸外国の教育理論 ジョン・デューイ他 第7回：諸外国の教育史 西洋教育史（古代～近世） 第8回：諸外国の教育史 西洋教育史（近世～近代） 第9回：諸外国の教育史 西洋教育史（近代～現代） 第10回：日本の教育史 古代～江戸時代 第11回：日本の教育史 江戸時代～明治維新「学制」 第12回：日本の教育史 明治維新「学制」～第二次世界大戦 第13回：教育制度の基礎 制度化された教育 第14回：教育制度の基礎 日本の学校教育制度 第15回：学校・教育改革の動き・まとめ
授業の進め方	スライドを使用し講義を行う。スライドは適宜プリント資料として配付する。
能動的な学びの実施	毎回小課題の記述を課し、適宜フィードバックを行う。

2025年度 千住学部時間割

授業時間外の学修	予習：参考図書等に目を通す（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）
教科書・参考書	参考書： 島田和幸ほか編著『教育原理（よくわかる！教職エクササイズ）』（ミネルヴァ書房、2018年） この他、適宜授業で紹介する。
成績評価方法と基準	授業内で課す小課題（60％）、最終課題（試験）（40％）の結果を総合的に判断する。
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーや小課題については、随時フィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus Square を参照
留意事項	本科目は卒業のための【必修科目】、教員免許状取得のための【必修科目】にあたる。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面・オンライン（オンデマンド課題）学修 15回に切り替える。 Campus Squareの掲示板またはレポート提出欄に課題・動画URLを提示し、レポート提出欄から課題を提出する形式をとる。 平時（対面授業時）に準ずる。

2025年度 千住学部時間割

科目名称	教職概論（小・中・高）（中・高）
授業コード	BN207
英語名称	Introduction to the Teaching Profession
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	吉村 日出東
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本授業は、学制導入以来体系化された教育の中で、公的地位を受けた教員の歴史的展開を通して教職とはいかなるものであるのか講義する。特に近代職業として成立した教員は、社会の変化と密接にかかわることとなり、学校における教育内容の変化や社会体制の変質等とともに、教員に対する社会からの要望も変化してきた。こうしたことを踏まえ、教師教育(養成、再教育)の課題と今日の教師の資質能力とは何か考えていく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	中学校教員としての経験を踏まえて、担当者の持つ学校教育現場の経験的な内容についても講義する。
到達目標	本授業は、教職が近代職業として成立したことを出発点とし、 時代とともに教員に対する社会の要望が変化していることを理解できる。 現代社会において、教師に求められる資質とは何かを自ら考えられるようになる。 教員の社会的地位についての課題や教師の役割について解決を目指すようになる。 中等教員に求められる資質とは何か考えられるようになる。 (科目特有の知識・技術についての到達目標) また、 教職と教師についての学修を通して、社会における職業人としての教師について、行動できるようになる。 (汎用能力としての学士力についての到達目標)
計画・内容	第1回 教師とは 第2回 教育法規上の教員の位置づけ（特に、中学校および高校について） 第3回 近代学校制度について 第4回 近代教師の誕生 職業としての教師 第5回 近代教師の誕生 教師像の変遷 第6回 学校における女教師について 第7回 教師の生活 第8回 アメリカ教育使節団報告に見る教員養成 第9回 ユネスコと国際的な教師像 第10回 現在の学校と教師の活動 学級経営（特に、中学校および高校について） 第11回 現在の学校と教師の活動 職務分掌（特に、中学校および高校について）

2025年度 千住学部時間割

計画・内容	第12回 教師に必要な資質とは何か 地域連携（特に、中学校および高校について） 第13回 教師に必要な資質とは何か 生徒の人生に関わること 第14回 現代社会の教育事件から教師は何ができるのか考えよう 第15回 全体のまとめ
授業の進め方	講義中心に授業を進めていくが、適宜質疑応答を加え、学生が積極的に授業に参加できるように進めていく。
能動的な学びの実施	質疑応答等、積極的な授業態度を求めます。
授業時間外の学修	予習は求めませんが、現代社会に関するニュース等に関心を持って理解するよう心がけてください。復習としては、教科書に使用する『学習指導要領』は、何度も繰り返し読んで、内容理解に努めてください。 予習：参考図書等のもくじに目を通す 復習：講義レジュメの整理・理解（合計60時間程度）
教科書・参考書	教科書： 『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』 なお、補助教材としてプリントを配布します。 参考書： 村井実『アメリカ教育使節団報告書』講談社学術文庫、『文部省百年史』、『文部省百二十年史』
成績評価方法と基準	定期試験と授業において課すリアクションペーパー、レポートで評価する。概ね、試験8：レポート2
課題等に対するフィードバック	課題等については、可能な限り解説を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面授業なった場合は次の通りとします。 「授業の進め方」 授業回で取り上げる「計画・内容」は、上記の対面と同様のものを基本として行います。但し、非対面のため、掲示に授業の課題と講義を提示しますので、それに対して、レポートをレポート欄に提出してもらいます。この場合、そのレポートの進捗状況に応じて、「計画・内容」の一部変更、分野ごとの増減など、を行うことがあります。 成績評価基準 成績は、非対面の中で提出してもらったレポートと最後に課す「試験に替わるレポート」を総合して評価します。 評価の割合は、 毎回のレポートを70%、試験に替わるレポートを30%

2025年度 千住学部時間割

科目名称	教育社会学（小・中・高）（中・高）
授業コード	BN247
英語名称	Sociology of Education
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	神谷 純子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	近代の公教育制度が平等な教育の保障をめざし発展してきたのとは裏腹に、格差を可視化し固定化する学校教育の機能を多くの研究者が指摘している。教育現場が直面している子どもや若者の様々な格差は、その背景にある社会的構造を反映したものであり、格差を縮小するには構造への働きかけが不可欠である。この授業では、教育が抱える諸課題をその構造的要因に遡って批判的、分析的に読み解く視点を学ぶとともに、将来学校教育に携わる免許保持者として、現場から社会構造を見晴るかし、諸課題の解決のために為しえる働きかけを具体的に考え行為につなぐ素地を培う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	学校教員としての実務経験を踏まえて講義内容及び方法に工夫を凝らし、教育現場に根差した知識技術の修得を図る。
到達目標	・現代日本の子どもや若者に関わる社会・教育現象に関心を持ち、理解を深める。 ・教育・社会現象について疑問を持つとともに、事実に基づいて自ら検証し、具体的な方策を現場の目線で考えられるようになる。 これは、学科のカリキュラムポリシーに掲げる「子どもの発達や教育の基礎を学ぶための科目（教育学基礎科目）」にあたるものである。 ・また、ディプロマポリシーに掲げる教職に求められる専門的知識を習得し、学識と技能を身につけ、様々な課題について、各領域で習得した幅広い知識をもとに、解決策を提案することができる。【基礎力・思考力】にあたり、自律的に学習に取り組む姿勢を涵養する。
計画・内容	第1回：ガイダンス：社会学とは 第2回：階層と教育 子どもの貧困 第3回：階層と教育 社会関係資本 第4回：階層と教育 学力と階層 第5回：学校のある社会：脱学校論 第6回：性差と性的役割 第7回：性的マイノリティ 第8回：労働市場へのトランジション 労働・働き方について 第9回：労働市場へのトランジション キャリア教育 第10回：マイノリティと教育 障害とは 第11回：マイノリティと教育 インクルーシブ教育 第12回：グローバリゼーションと教育 日本人論 第13回：グローバリゼーションと教育 人種・民族・国籍 第14回：グローバリゼーションと教育 多文化共存 第15回：まとめ
授業の進め方	スライドを使用し講義を行う。適宜映像資料を視聴する。
能動的な学びの実施	毎回小課題の記述を課し、次の授業にフィードバックを行う。

2025年度 千住学部時間割

授業時間外の学修	予習：参考図書等のもくじに目を通す（時間 45分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 90分）
教科書・参考書	参考書： 酒井朗・多賀太・中村隆康編著『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房，2012年． その他、適宜授業で紹介する。
成績評価方法と基準	授業内で課す小課題（60％）、最終課題（試験）（40％）の結果を総合的に判断する。
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーや小課題については，随時フィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus Square を参照
留意事項	本科目は【卒業必修】及び教員免許状取得のための【必修科目】にあたる。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面・オンライン（オンデマンド課題）学修 15回に切り替える。 Campus Squareの掲示板またはレポート提出欄に課題・動画URLを提示し、レポート提出欄から課題を提出する形式をとる。 平時（対面授業時）に準ずる。

2025年度 千住学部時間割

科目名称	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法（中・高）
授業コード	BN408
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	神谷 純子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	特別活動は、学校教育における教育課程の一領域を構成する。子ども個々が実際の活動体験や生活経験を通して、「なすことによって学ぶ」ことを指導の基本理念としている。それゆえ、望ましい集団活動の実際を演習的に体験し、人間関係形成能力や自主性及び実践的な態度形成の力量を育み、学生自らが学べるような授業を構成することを目的とする。この考えを基本に、学校教育において子どもが身に付けたい自発的・自治的な力、社会の一員としての自覚と態度、自己指導能力などについての研究を深める。あわせて、学生自身の社会人基礎力や自己実現能力を養う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	学校教員としての実務経験を踏まえて講義内容及び方法に工夫を凝らし、教育現場に根差した知識技術の修得を図る。
到達目標	（１）特別活動の意義や目標の理解、特別活動の4つの内容の理解、実践事例等の分析と考察、学習指導案の作成（とくに学級活動）とその活用、などの理解を目標とする。 （２）教職にあって不可欠な子どもとのかかわりや学級をまとめる力量などを幅広く具体的に学ぶことを目標とする。 学科のカリキュラム・ポリシーとの関係では、「教職基礎科目」に分類され、教育的指導者に要求される子どもの発達や教育に関する基礎的理解力を養成する科目に相当する。また、学科のディプロマ・ポリシーとの関係では、教育の実践的な活動を支え、それに不可欠な教育学・教科内容学・教科教育学などの専門的知識や技能を修得することを目指す科目に相当する。
計画・内容	第1回：特別活動の目標と内容 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第2回：学習指導要領における「学級活動の内容(1)」について（評価・改善活動を含む） 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第3回：学習指導要領における「学級活動の内容(2)(3)」について 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第4回：学校・学級における集団活動のポイント（内容，方法） 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第5回：学級集団育成の技術 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第6回：特別活動における特別支援教育 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第7回：学校における実践事例 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）

2025年度 千住学部時間割

計画・内容	第8回：特別活動の内容構成の理解 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第9回：単元計画の基本的な考え方及び学習状況の評価 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第11回：各内容の理解（クラブ活動） 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第12回：各内容の理解（学校行事） 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第13回：実践事例 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第14回：特別活動と教育課程の編成・他の教育内容との関連 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分） 第15回：指導計画の基本的な考え方・作成 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）
授業の進め方	基本的に講義形式だが、随時演習等を行う。
能動的な学びの実施	随時演習等を行う。
授業時間外の学修	予習：参考図書等の目次に目を通す（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）
教科書・参考書	主要参考文献： 文部科学省『中学校学習指導要領』 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 文部科学省『高等学校学習指導要領』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』 その他、適宜授業で紹介する。
成績評価方法と基準	（１）各々の担当者が以下の基準で素点を算出する。 授業内で課す小課題（60％）、最終課題（試験）（40％）の結果を総合的に判断する。 （２）各々の素点を授業担当回数の割合で比重付けして合算する。
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーや小課題については、随時フィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus Square を参照
留意事項	本科目は、教員免許状取得のための【必修科目】にあたる。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面・オンライン（オンデマンド課題）学修 15回に切り替える。 Campus Squareの掲示板またはレポート提出欄に課題・動画URLを提示し、レポート提出欄から課題を提出する形式をとる。 平時（対面授業時）に準ずる。

2025年度 千住学部時間割

科目名称	教育方法論（情報通信技術の活用を含む）（小・中・高）（中・高）
授業コード	BN211
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	平山 靖
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	どのような授業をすれば上手く教えられるのでしょうか？どのように教材や学習環境を工夫すれば学習者は上手く学べるのでしょうか？本科目では、授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学びます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	16年間、千葉県公立小学校で学級担任をしてきました。自治的な学級経営、学習者中心の授業実践等の具体的な経験をもとに、児童・生徒と共に創る授業の楽しさ、実践に役立つ指導法について、能動的な学習を多く取り入れながら講義します。全員に模擬授業に挑戦してもらいます。
到達目標	【学校教育学科が定めるディプロマ・ポリシー】 3．教職に求められる専門的知識を習得し、学識と技能を身につけ、様々な課題について、各領域で習得した幅広い知識をもとに、解決策を提案することができる。【基礎力・思考力】 【学校教育学科が定めるカリキュラムポリシー】 4．子どもの発達や教育の基礎を学ぶための科目（教育学基礎科目） をうけて、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法、情報機器や教材の活用に関する基礎的な知識・技能を模擬授業などを通して身に付け、活用することができる。
計画・内容	第1回 オリエンテーション 教育技術と教育方法・指導案を書く目的・指導案の構成と基本用語 第2回 模擬授業1 指導案作成のための基礎（1）資質能力と学習指導要領 第3回 模擬授業2 指導案作成のための基礎（2）目標の設定と評価規準 第4回 模擬授業3 指導案作成のための基礎（3）資質能力の育成を意識した単元計画と評価計画 第5回 模擬授業4 学習指導案の作成（1）教科・領域の決定と教材研究方法の具体 第6回 模擬授業5 指導案作成のための基礎（4）教科書と単元計画作成とパフォーマンス課題 第7回 模擬授業6 指導案作成のための基礎（5）本時の授業展開方法：教科横断でもとめられる情報活用能力の必要性と情報活用能力Basic 第8回 模擬授業7 指導案作成のための基礎（6）本時の授業展開方法：情報活用能力Basicを用いた授業展開作りの方法と実際 第9回 模擬授業8 指導案作成のための基礎（7）ICT・デジタルコンテンツの活用と実際 一斉指導における効果的な利用方法 第10回 模擬授業9 指導案作成のための基礎（8）ICT・デジタルコンテンツの活用と実際 デジタル教科書の効果的な利用方法 第11回 模擬授業10 指導案作成のための基礎（9）ICT・デジタルコンテンツの活用と実際 個別の学習における効果的な利用方法 第12回 模擬授業11 学習指導案作成のための基礎（10）ICT・デジタルコンテンツの活用と実際 協働的な学習に活かす方法 第13回 模擬授業12 学習指導案の作成（2）指導案のルーブリック ICTを活用した模擬授業準備および授業の撮影についての諸連絡 第14回 学習指導案の作成（3）代表者の指導案検討と代表者の模擬授業 第15回 まとめ・教師の学びと省察の重要性

2025年度 千住学部時間割

授業の進め方	対面授業で実施します。講義や模擬授業の中に、さまざまなアクティブラーニングを取り入れます。パワーポイントによるプレゼンレーションを用意します。
能動的な学びの実施	対面授業で実施します。毎回の授業は原則次のように行います。 教科書の輪読を通し、基礎的な教育技術についての知識を学習します。 毎回9名程度に模擬授業に挑戦してもらいます。課題は、中学校の保健、理科、英語を中心に出示します。教育技術を実際に使うことの意義や重要性について体感することを狙いとします。 25分程度の講義をもとにしたミニレポートを毎回行います。講義内容の理解を深め、指導案作成に活かせるようにします。
授業時間外の学修	計60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、事前課題の予習や参考書の読み、指導案の作成、模擬授業に向けての準備などを行うこと。
教科書・参考書	【教科書】 向山洋一 『新版 授業の腕を上げる法則 (学芸みらい教育新書 1)』 【参考書】 ・中学校学習指導要領(平成29年3月告示) 東山書房 ・高等学校学習指導要領(平成30年3月告示) 東山書房 ・解説 免許状を取得する教科編の学習指導要領
成績評価方法と基準	評価項目 模擬授業、指導案、授業映像の提出がない場合、不可とします 授業中の課題(50%)模擬授業への取り組み(15%)まとめとして作成する指導案・模擬授業映像(35%) ループリック 【授業中の課題】(50%)講義の際、レポートを出示します。5点満点のレポート10回分の合計得点です。 【模擬授業への取り組み】(15%)全体での模擬授業15点満点で採点します。 【まとめとしての指導案・授業映像の提出】(35%)指導案のループリックに基づいて評価をします。5項目、5点満点、合計25点で評定します。授業映像を授業の方法、ICTの活用を10点満点で評定します。 合計得点90以上：S、80台：A、70台：B、60台：C、60未満：D(不可)
課題等に対するフィードバック	授業課題に対しては、その場で講評します。 アクティブラーニングの体験や模擬授業では、それぞれに簡潔なコメントをします。
オフィスアワー	Campusquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	1. 授業の進め方 5回程度 オンライン授業を実施する。Zoomの利用。5回程度 オンデマンド型での配信とする。 5回程度 課題レポートの提出を求める。 2. 成績評価方法と基準 授業への参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とする。提出課題(学習指導案など)の成績(100%)で評価する。